

こだま Q&A



Q55

ヒトヘモグロビン専用容器に採便した後の保存方法や検査可能期間について教えてください。

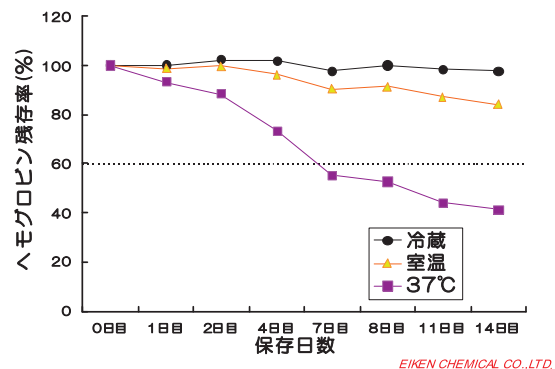
A55

ヒトヘモグロビン専用容器には糞便中のヘモグロビンを安定に保つための緩衝液が入っているため、冷蔵保存（4℃）では約2週間安定で最も良い保存方法となります。

室温保存（20～25℃）でも10日間くらいは90%のヘモグロビン残存率があるため、家庭など冷蔵保存できない場合は、直射日光の当たらない風通しの良い場所で保存することをお勧めしております。

ただし、30℃を超えるような場所では2日目以降急激にヘモグロビンの安定が失われるため注意が必要です。（右グラフ参照）

採便後Hb安定性



お問い合わせ：☎代表 0120-14-7191(フリーダイヤル) / 082-247-7191(ダイヤルイン)

きゅんぽーる

今月号の“検査室発”記事はいかがでしたか。広島県の肝がん死亡率は、佐賀県同様全国平均を上回っています。そのため、死亡率減少にむけて早くから様々な取組みが実施されてきました。さらになんがん対策全般でも、広島県は「二次保健医療圏」として7地域に分割されますが、その7地域すべてに国指定の「がん診療連携拠点病院」が配置されているなど、地域で高度な医療を受けることのできる体制が整備されています。その半面、がん検診受診率は近年やや上昇傾向にあるものの、あまり芳しくありません。せっかく良質な受療環境があるのに検診を受けないのはもったいないと感じています。

がん予防には早期発見・早期治療がとても大切です。一人でも多くの方がそれを知ることによって検診受診率がさらに上昇し、がんで死亡する人が減少することを心より願っています。

藤井 ひとみ (検査科免疫血清係係長)

広報委員

谷敷 圭美 / 亀石 猛 / 熊川 良則 / 田中 洋子 / 初岡 博 / 高磨 潤